代表質問

自民党こまつ
川崎（かわさき） 順次（じゅんじ） 議員

代表質問 一括質問

夢が感じられる2期目へのチャレンジ予算!!

認知症対策、地域全体で支える仕組みを！

動画でチェック

◆2025年度予算編成について

Q 4年前55の公約を挙げ、子育て支援・企業誘致等を進め、来年度予算は市長選のため暫定的なものになるが具体的な方針は。2期目への大胆なチャレンジ予算が必要。

A 先送り体質に終止符を打ち、様々な課題に対して熟慮しつつも逃げずに決める力、そして決めたことを覚悟して進める力こそが、為政者また小松市全体、まちにとっても重要なことと考えている。

次の任期においても市民の皆さんに負託を得ることができたならば、激動する時代の中で、2040年ビジョンに掲げた未来像の実現に向けて、ウラ日本からのチャレンジャーとして本格予算に取り組んでまいりたい。

◆東京で開催のイノベーターズ・ミートアップ小松について

Q 約100人もの多彩な参加者が集いどんなアプローチがあり、このご縁をどう生かしていくのか。

A この取組によって小松市へのファンが増えていくこと、100年後の小松の新しい歴史を切り開いていく一歩につながっていくことを期待している。

◆住んでみたい街、住み続けたい街について

Q 11月発表の「住み続けたい街ランキング北陸版」では、小松市は県内5位であった。住み続けたい街となるための政策は。

A 現在策定中の総合戦略のトップテーマは、「若い世代の流れを変える好循環のまちづくり」である。新たな産業をつくり、仕事を得た若い世代が小松に住み、家庭を築き、子供たちを育んでいく、その大きな流れをつくり出していくことこそが本市の成長発展につながってくるものである。

◆大学生に対する奨学金について

Q 企業と連携し、卒業後にUターン就職した場合の返済支援を。

A 現在、奨学金制度を設けており、より利用しやすいように制度見直しを含めた検討を行っていく。また、地元経済界とも協力しながら、引き続き取り組んでいく。

◆首都圏などで多発している連続強盗と闇バイトについて

Q どのような政策を講じるか。

A 小松警察署等と連携し、防犯に対する啓発を行っている。

Q 犯行を食い止める抑止策は。市内に防犯カメラの設置を進めよ。

A 道路、ごみ集積所での防犯カメラ設置に係る支援を行っている。

Q 学校で注意喚起が必要。

A 非行被害防止講座等で闇バイトの危険性を具体的に折り込み、注意喚起を促していく。

◆認知症不明者をどう減らし守るか

Q 認知症にどう取り組むか。QRコード付き名札の導入検討を。

A 捜索協力ツールの一つとして今後考えていきたい。

◆高齢者宅や学校周辺の見守り、災害時のドローン活用について

Q こまつ空の宅急便を立ち上げては。ドローンポートの整備が必要。

A 松東地区などにおいて、ドローンを活用したスマート物流の実装に取り組んでおり、着陸ポイントを10カ所開設。

Q 高齢者への医薬品の輸送、災害時の物資輸送、見守り、防犯支援の可能性は。

A ドローンをはじめとする先進的な技術を効果的に活用する取組を今後も進めていきたい。

一般質問

市民の生活と未来への支援策

吉柴（よしば） 文悟（ぶんご） 議員

一括質問

動画でチェック

◆被災し小松市で生活されている方へのケア

Q 能登半島地震の被災者への支援について。

A 11月時点で103世帯254名の支援世帯がある。小松市社会福祉協議会内の地域支え合いセンター小松が、被災者の見守り活動や日常生活上の相談を受け支援を行う体制を整えている。

Q 被災者への心のケアはどのように行われているか。

A 子供たちへの対応は、小中学校においてスクールカウンセラーによる心のケアを行うほか、発災から1年の節目に起こるアニバーサリー反応などによる影響にも注意深く見守りを行っている。被災者支援はその時々により必要とされる情報や支援が変化するため、被災者が様々な情報を的確にキャッチし、スムーズに各種相談につなぐことができるよう、ホームページなどを充実させていく。

◆スタートアップ小松

Q 地域公共交通のリ・デザイン（再設計）について。

A 将来的には運転士不足や路線バスの減便等も考えられるため、自動運転バスや公共ライドシェアなど新たな交通手段を積極的に導入している。今後は住民ニーズの調査やこまつ地域交通プランの見直しを行い、持続可能な公共交通の構築を目指す。

Q スタートアップ支援の取組について。

A 起業家育成を支援するこまつスタートアップラボを実施している。将来的にはビジネス創造プラザ内のインキュベーションルームや市の遊休施設を活用するなど、市内のスタートアップ創出を支援していきたい。

Q デジタル化に向けて専門的なリーダーシップをとるCDO（最高デジタル責任者）の必要性を問う。

A まずは、住民情報システムの標準化や窓口支援サービスの推進を着実に進めたい。CDOの設置については、今後の検討課題としたい。

尾小屋鉱山資料館を核とした周辺持続活性化構想策定について

深田（ふかた） 博智（ひろとも） 議員

一括質問

動画でチェック

◆尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化検討会の結果について

Q どのような課題が見えてきたか。

A 歴史・文化の面では、尾小屋鉱山の遺構などが部分的にしか公開されておらず、鉱山が繁栄した時代のスケール感やストーリーが感じ取れない。カラミ等の調査が十分にされておらず、どの範囲まで鉱山が広がっていたのか把握できていない。観光活用の面では、資料館の水道やトイレ、駐車場の整備が十分ではない。学校や団体による学習、体験等の場やスペースがない。人づくりの面では、現地で活動するボランティアの後継者不足、地域人口の減少などが挙げられる。

◆ポッポ汽車展示館について

Q イベント来場者数は。

A 気動車、電動トロッコの運行やカラミ遺構のガイドツアーは非常に多くの方に人気を博しており、天候によるばらつきが見られるものの、毎回300名から500名の方に訪れていただいている。県内をはじめ、北海道、関東、東海、信州、関西、中国地方など全国から鉄道やトロッコ目当ての訪問者が多く、常連客も見受けられる。

Q 維持管理については。

A 車両整備等に必要な資材の調達やボランティアの休憩場所の確保などといった課題があるが、これらについて随時協議して対応していきたい。

Q ポッポ汽車展示館を大倉岳高原スキー場の第5駐車場奥に移設しては。

A 移設することにより、施設機能や体験イベントの充実などに効果があると考えている。一方で、資料館やマインロードとの役割、機能の分担、利用者動線の在り方を踏まえた施設規模や事業費、財源など総合的に検討する必要がある。持続可能な具体的な方法について、先月立ち上げた構想策定委員会の中でしっかりと検討し、実現に向けて取り組んでいきたい。

一般質問

乳幼児健診について

斎藤（さいとう） 和美（かずみ） 議員

一括質問

動画でチェック

◆乳幼児健診について

Q 集団健診の発達検査の内容と検診率について。

A 精神発達や言語理解など、年齢に応じた発達の検査として、1歳6か月時は、1対1の関わりの中で理解度を確認し、3歳児では、1対1の関わりでの確認に加え、強いこだわりの有無などを確認している。健康検査の受診率は99%を超えており、参加できなかった家庭には電話で状況を確認している。

Q 発達支援センターえぶりぃでの相談件数の推移は。

A 令和元年度には18歳以下で342名（未就学児童は188名）、令和5年度には、18歳以下で378名（未就学児童324名）の相談があり、未就学児の相談は1.7倍に増加した。

Q 今後の発達支援の拡充策について。

A 医療・福祉・教育などの関係機関による連携と、児童の発達過程での切れ目ない支援を目的とする協議会を今年度中に設置する。

幼児期に発達の遅れを不安視する家庭が増えてきている現状を鑑み、5歳児健康検査を実施し、全ての児童が個々の能力を最大限に高めることができる体制の構築を目指す。

◆いつまでも元気にいるための生きがいづくり

Q 事業所サロンについて。

A 介護事業者が実施主体となり、公民館や事業所の空きスペースで活動する。サロンの企画・運営は、地域の住民ボランティアの参画を得て、地域資源を活用し行う事が要件となっている。

Q 地域資源を活用しての環境づくり。

A 地域資源を活用した高齢者の生きがいづくりの取組として、通いの場の創出支援や地域サポートクラブのサポーターの育成などを行っている。高齢者が社会活動に参加したり、社会的役割を持つことが、介護予防につながるというエビデンスがある中、生活の身近な範囲にある地域資源を活用して、いろいろな人が関り、支え合う集いの場を増やしていく取組が地域において広がる事を期待し、市も引き続きその役割を担ってまいりたい。

北陸新幹線の「米原ルート」再考と千松閣廃止に伴う代替えについて

村中（むらなか） 洋（ひろし） 議員

一括質問

動画でチェック

◆北陸新幹線「米原ルート」再考について

Q 行政として再考の取組は。

A 拙速に詳細ルートを決定しようとする現在の流れを止めることが必要であり、近隣首長や議員等と連携し、関係機関に要望活動を行いたい。政府与党には、米原ルートも含めたあらゆる選択肢の検討を求めてまいりたい。

◆千松閣廃止に伴う代替機能について

Q せせらぎの郷、市民センターを改修し、施設の利便性確保の取組は。

A 優先度の高い施設改修を順次行っており、代替機能などのハード整備は困難。利便性の向上やソフト面の充実などを行っていきたい。

Q 湯ったりシニアふれあい入浴助成券の年間利用回数の増加は。

A 年間利用回数を増やす方向で考えたい。

Q 木場潟公園に温泉複合施設を誘致しては。

A 県による第2期整備についてのアンケート調査が実施されたと聞いている。市としても、南加賀地域の交流拠点として、さらなる魅力向上に期待している。

◆防災体制の強化について

Q 地域防災計画の今後の取組は。

A 今後の国・県の防災計画見直し後、地域防災計画の見直しに着手し、備蓄計画の策定や避難所の適正配置など、さらなる防災対策強化に取り組む。

Q 避難所運営マニュアル策定で地域住民にどのように活用してもらうのか。

A このマニュアルを基本に地域住民で話合い、各校下・各町内会の実情に合ったマニュアル作成をお願いしたい。

◆除雪作業について

Q 除雪車のGPS搭載メリットは。

A 現在地や進捗状況を把握し、運行管理の効率化が図られる。

Q 除雪機械オペレーターの担い手不足など除雪体制の取組は。

A 除雪オペレーターの育成を支援する補助金制度を制定している。

一般質問

安心・安全で、好循環を生み出すまちづくり

中西（なかにし） 肇（はじめ） 議員

一括質問

動画でチェック

◆闇バイトによる犯罪対策

Q 匿名・流動型犯罪よる犯罪が多発している。石川県警察本部では犯罪の摘発や抑止、グループの壊滅を図るために「トクリュウ総合対策プロジェクトチーム」を立ち上げた。安心・安全なまちづくりについて、見解を伺う。

A 本市においても小松警察署と連携して様々な取組を進めている。今後とも、関係機関と連携し、詐欺や犯罪のない安心・安全なまちづくりに向けて取り組む。

◆急傾斜地崩壊危険区域の危険木

Q 急傾斜地崩壊危険区域内には、杉や雑木が生い茂り、倒木により民家に被害を与える危険性がある。危険木対策について、見解を伺う。

A 民有地の危険木等の対応は、土地所有者の責任であるが、市民の安心・安全に関わる場合は、土地所有者の負担軽減、対象範囲、判断基準等を整理し、補助制度などを検討する。

◆小松辰口線の新橋の名称

Q 主要地方道小松辰口線の整備事業で梯川に架かる新しい橋の名称について、伺う。

A 地元町内会に名称の提案を依頼した。その結果、遊泉寺大橋で決定した。橋の銘板の文字は、国府小学校の児童に依頼する。

◆プラスのスパイラルについて

Q 小松市が継続的に成長、発展するために好循環を生み出す一連の施策について、見解を伺う。

A 産業創生により雇用が拡大する。これにより移住者が増えて定住に結びつく。やがて新しい家族が増え、人流の好循環を生む。質の高い生活空間により、さらなる産業が生まれて、プラスのスパイラルで好循環のまちづくりを大きく加速する。雇用環境を整えることを起点にした好循環のまちづくりを目指す。

関係人口の創出・拡大に向けて

岡山（おかやま） 晃宏（あきひろ） 議員

一括質問

動画でチェック

◆二地域居住について

Q 関係人口の拡大について本市の取組は。

A 若者や女性の働きやすい仕事の創生や企業誘致、断トツの子育て支援などによる定住政策も進めつつ、本市と関わりを増やすことに資する取組も展開していきたい。

Q 住民票を異動せず他地域への公立小中学校へ学籍を異動でき、滞在先の小中学校に通学が可能となるデュアルスクールについて。

A 二地域居住であれ、その他の理由であれ、児童生徒が区域外就学により教育的に不利益を被らないことを第一に考え対応していく。

Q 二拠点目の地域では、課税されない代わりに市民サービスは受けられない。本市にふるさと納税してもらった方に行政サービスを提供しては。

A 二地域居住者における住所地以外での暮らしを支える一つのアイデアではあると考えるが、現状では課題が大きいと捉えている。国は環境整備を始めたところであり、今後住民票に準じた証明制度とそれにひもづいたサービス受給及び負担の仕組みが議論されていくのではないかと考えている。

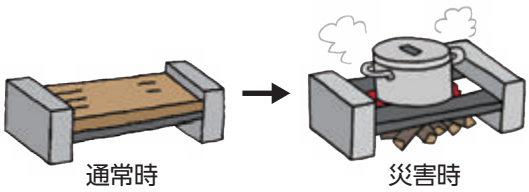
◆防災公園の整備について

Q 指定緊急避難場所となっている公園は。

A 芦城公園、小松運動公園、さわ池ふれあいパークなど11か所。

Q 指定緊急避難場所である公園に、一時的にしろ避難するとなればそれなりの機能が必要だが、機能面の現状や今後の取組は。

A 都市公園施設長寿命化計画に基づいた改修、更新時に合わせ、防災機能を高める整備を進めていきたい。



かまどベンチ

動画は QR コードからどうぞ